

[サンチャ]

SANCHA

Nov.2019
vol.02

日本大学 三軒茶屋キャンパス 広報誌

危機管理学部



RM
COLLEGE OF
RISK MANAGEMENT

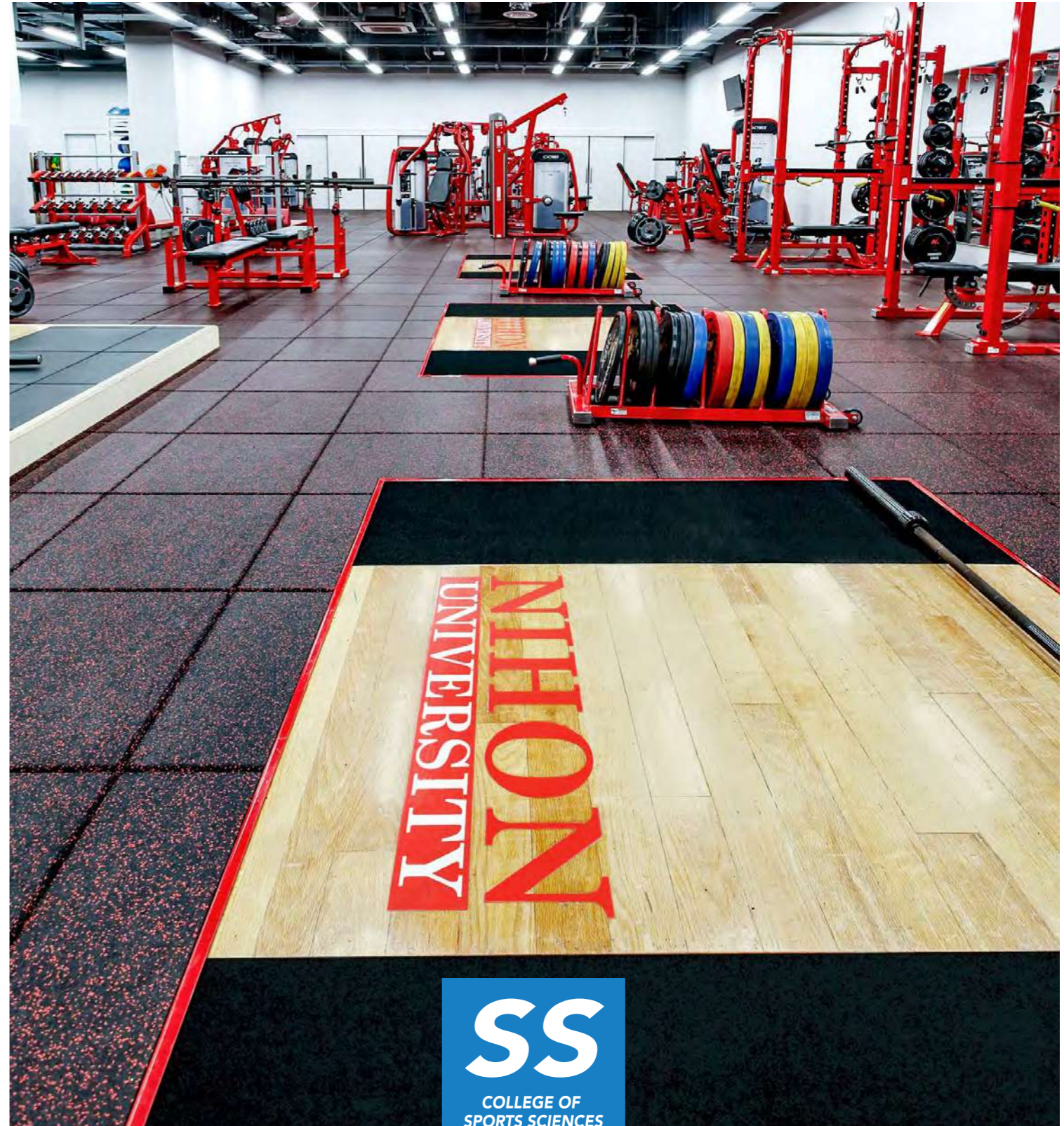
[サンチャ]

SANCHA

Nov.2019
vol.02

日本大学 三軒茶屋キャンパス 広報誌

スポーツ科学部



SS
COLLEGE OF
SPORTS SCIENCES

東京五輪で、 きっとメダルを。

陸上・やり投の北口榛花選手と競泳の長谷川涼香選手は、スポーツ科学部が誇るアスリートで、共に2020年の東京五輪出場を目指している。競技も学年も違うため、これまでほとんど話す機会がなかった二人だが、五輪にかける想いは同じ。アスリートとしてのこれまでとこれからを語りあってもらった。

陸上・やり投 日本記録保持者

競泳・バタフライ 2019日本選手権優勝

北口 榛花 × 長谷川 涼香

— 競技をはじめたきっかけ？

北口: 高校の顧問の先生から勧められてはじまりました。元々高校では競泳をしようと思っていたので戸惑いましたが、やりを初めて投げてみた時の感触と土に刺さった時の音が快感でもっとやってみたく…。最初は競泳と陸上を両立してやってきましたね。

長谷川: 私は両親が水泳のコーチをしていたので、物心がついた時には自然に水泳をしていました(笑)。

— 競技をやってきて一番うれしかったことは？

長谷川: 小3の時から出場していたジュニアオリンピックで、6年生の時に優勝したことです。予選のレースはダメダメだったので、その分優勝の喜びが大きく、周りの人も一番喜んでくれた試合でした。

北口: 私は競技歴がまだ短いので、できない

ことがたくさんあります。それでも練習しているうちにできるようになり、それが自分の競技成績に繋がったんだと感じた瞬間が一番うれしいですね。

— 逆に、辛かったことは？

長谷川: 高校生の頃までは何年も自己ベストを更新できないということはありませんでしたが、今は自己ベストまで届かない試合がほとんどです。調子のよし悪しも感じるようになり、

練習の仕方を、自分で考えるようになった。

自分をコントロールすることや、結果を受け止めるのが大変で…。周りの人から「泣くな!」とよく言われますが、一人になってスッキリするまで泣いたり、思ったことを友達などに話したりすることで気持ちを切り替えて、また次の練習に取り組んでいます。

北口: 今まで辞めたいと思うほど辛かったことはありませんが、怪我をしてから元の自分に戻るまで、休んでいた分の感覚を取り戻すのは大変でした。元に戻した上で、それ以上になることを考えた時に、自分だけでどうにかしようと思わないで、周りの先生や選手に自分から相談するようになりました。

— 1日大入学生後、アスリートとしての変化は？

北口: それまでは自分一人で戦っている雰囲気

があったのですが、競技スポーツをしている友達も増えて、「あの子も頑張っているから私も頑張ろう!」と思うことや、その人の競技成績などを聞いてすごく刺激を受けるようになりました。

長谷川: スポーツ科学部では、スポーツについての専門的な授業を学べるので、技術や練習の

仕方を自分でも考えるようになりました。今では映像を見ながらフォームを分析するなど、以前はやっていなかったことをやっています。

— お互いの競技や練習などについて聞きたいことは？

北口: 試合の時のルーティンとかはあるの？

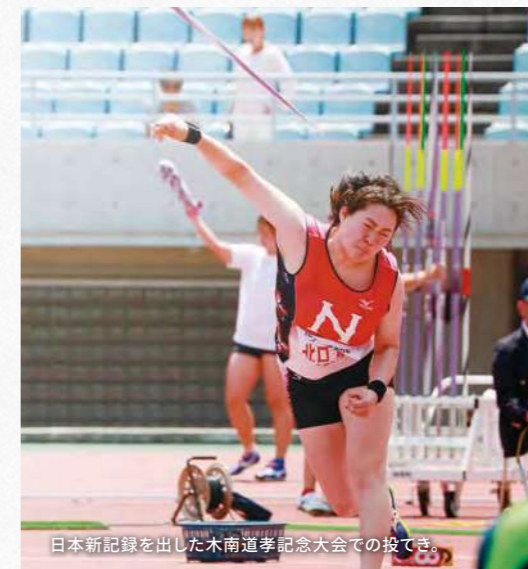
長谷川: スタートの前、スタート台に足をかけハムストリングを伸ばし、片腕ずつ思い切り回し、ジャンプをして体を叩いて、深呼吸をするという動作ですね。

長谷川: やり投の動作の中で一番重要なのは、どういうところですか？

北口: 人によって違うと思うけど、私はどれだけ後ろから力を入れられるかというのを大事にしています。気をつけの姿勢をゼロとして前をプラスに考えた時、マイナスの領域をどれだけ増やせるかが、やり投にどれだけ長く大きい力を加えられるかに関係してくると思っていますね。

長谷川: そのために一番効果がある練習は？

北口: 3キロとか1キロのメディシンボールを投げたり、立った状態からブリッジして起き上がったりのことかな。



日本新記録を出した木南道孝記念大会での投てき。

HARUKA KITAGUCHI 北口 榛花

【きたぐち・はるか】スポーツ科学部4年
1998年生まれ。北海道出身。旭川東高校卒。高校入学後に陸上部にスカウトされ、やり投を始める。入部2か月で道内大会で優勝するなど急成長を遂げ、2年生でインターハイ、日本ユース選手権、国体の三冠を達成。日本陸連の「ダイヤモンドアスリート」に選出された3年時には、世界ユース選手権で金メダルを獲得した。さらに本学入学後の2016年セイコーゴールデングランプリで日本歴代2位の61m38(ジュニア日本新・日本学生新)を記録したが、リオ五輪参加標準記録をクリアできず出場を逃した。今年2月に単身チェコへ渡り練習を積んだ成果を5月の木南道孝記念で発揮。アジア歴代5位となる64m36の日本新記録を樹立。2019世界陸上(9月・ドーハ)と東京五輪の参加標準記録も突破し、注目度が高まっている。

SUZUKA HASEGAWA 長谷川 涼香

【はせがわ・すずか】スポーツ科学部2年
2000年生まれ。東京都出身。淑徳巣鴨高校卒。フィットネスクラブ東京ドーム所属。3歳から水泳に取り組み、ジュニアの様々な大会のバタフライ種目で優勝。2016年、高校2年生でリオ五輪に出場(200mバタフライ9位)。翌年の日本選手権200mバタフライで初優勝し、世界選手権にも出場(200mバタフライ6位)。本学に入学した2018年は、日本選手権200mバタフライ2位、パンパシフィック水泳(東京)200mバタフライ4位。8月のアジア大会(ジャカルタ)200mバタフライで銅メダルを獲得。10月から父・滋さんをコーチに迎え、親子タッグで練習に励む。今年4月の日本選手権200mバタフライで2年ぶり2度目の優勝を飾ったのに続き、5月のジャパンオープンでも優勝を果たした。



日本選手権200mバタフライ決勝は、競り合いを制して優勝。世界選手権(広州)代表の座を射止めた。

北口: ところでオフの日はどんなことをしているの？

長谷川: 1日オフならショッピングですね。アウトレットなどに行って、何も気にせず好きなものを買ったりしたいです(笑)。シーズンオフには毎年地方に旅行をします。普段は地方に行っても試合ばかりで観光する時間がないので…。

北口: 私の場合は、よく寝る、美味しいものを食べる、治療を受ける、そして買いものに行くというのが

"憧れの選手"として、誰かの原動力になりたい。

がよくあるパターン。オフの日のうちに心身の疲労を全部抜いて、次の練習に備えたいからね。

— 自身のアスリートとしての理想像とは？

長谷川: 小学生の頃は何も考えず試合に臨んでいましたが、今はプレッシャーや緊張感のある試合ばかりです。その中でトップ選手は世界の舞台で結果を残していますから、私も狙ったレースで、しっかり結果を出せる選手になればと思っています。

北口: 自分自身、幼い頃からたくさんのスポーツを見て、いろんなアスリートに憧れてきました。

今はトップアスリートを目指せるようになったので、子供たちの憧れや目標とされたり、誰かの原動力になれるような選手になりたいです。

— 今後の目標は二人とも東京五輪ですね？

長谷川: はい。競泳は日本にも強い選手が多く、その人たちと同じ場所に立つまでは厳しい戦いが続きますが、まずは自己ベストを更新し、オリンピック出場を決めて、さらにメダルを獲得することが一番の目標です。

北口: 私は、日本人女子の投てき選手でも世界と戦えるということを証明して、多くの人にやり投に興味を持ってもらいたいと思っています。そのためにダイヤモンドリーグを回ったり、オリンピックや世界選手権で金メダルを獲得することが大事です。記録的には世界記録を目指せるポジションに行けるように成長していきたいと思っています。

長谷川: 北口さんと一緒に、学部長へ良い報告ができればいいですね。

北口: 夢の舞台まで、お互い頑張っていきましょう!



ピックアップ・アスリート

PICK UP ATHLETE FRESHER

世界の舞台上で戦うトップアスリートを多数輩出してきた日本大学。
そんな先輩たちに続き、現在数々の国際大会で活躍しているスポーツ科学部の現役学生を紹介します。

- ①いま興味があること ②好きな科目 ③気分転換にすること
④好きな言葉/心掛けていること ⑤競技以外でやりたいこと ■主な競技成績ほか ※競技成績は2019年9月末現在



SURFING

サーフィン



森 友二 スポーツ科学部 1年

- ①楽器 ②哲学 ③映画鑑賞 ④『No Pain, No Gain』 ⑤音楽、描画

■2018年：JOCジュニアオリンピックカップ大会 優勝
■オリンピック強化選手



RIFLE SHOOTING

射撃

堀之内 愛 スポーツ科学部 1年

- ①小説を読むこと ②コーチング学原論 ③運動や読書 ④今、自分ができることをする ⑤旅行で日本各地の観光名所に行きたい

■第36・37回全国高等学校ライフル射撃競技選抜大会 2連覇
■2018年：第37回国民体育大会ライフル射撃競技 優勝、JOCジュニアオリンピックカップ兼第29回ISSFジュニアライフル射撃競技選手権大会 優勝
■2019年：ISSFワールドカップニューデリー大会 出場



WRESTLING

レスリング



今井 佑海 スポーツ科学部 1年

- ①おいしいものを食べる ②競技スポーツ実習 ③お姉ちゃんにご飯に行く ④継続すること ⑤旅行で海外に行ってみよう

■2018年：世界ジュニア選手権大会 優勝
■2019年：アジアジュニアユース選手権大会 優勝、クリッパン女子国際大会 優勝



CLIMBING

クライミング

天笠 颯太 スポーツ科学部 1年

- ①タビオカ、洋服 ②競技スポーツ習得実習 ③映画鑑賞、食べ歩き、服を買う ④何事にも絶対に諦めない、常に大会で勝っている自分をイメージしている ⑤海外へ旅行に行きたい!

■2018年：JOCジュニアオリンピックカップ大会 4位、第37回国民体育大会ボルダリング 4位・リード 5位
■2019年：日本ユース選手権リード競技大会 4位、第5回ボルダリングユース日本選手権 4位、FISE ワールドシリーズ広島大会 4位



FLASH NEWS

東京五輪を目指す
スポーツ科学部のアスリートたちが
国内外の大会で成果を挙げています!

LONG JUMP

陸上
世界選手権
男子走幅跳
橋岡優輝
選手(3年)が
日本人初
入賞!

©Takashi Ohtsuki

SKATE BOARD

スケートボード
日本選手権
パーク男子
平野歩夢
選手(2年)が
初優勝!

ユニバーシアード 競技大会で大活躍!

ナポリ(イタリア)にて開催された第30回ユニバーシアード競技大会に、日本を代表してスポーツ科学部より15名の選手が出場し、7名の選手がメダルを獲得しました。応援ありがとうございました。

陸上	橋岡 優輝 (3年)	走幅跳	金メダル
	北口 榛花 (4年)	やり投	銀メダル
水泳	吉田 啓祐 (1年)	400m自由形	金メダル
	石川 慎之助 (1年)	100mバタフライ	金メダル
	小堀 優加 (1年)	800m、1500m自由形	金メダル
	山本 茉由佳 (2年)	4×100mフリーリレー	銀メダル
柔道	桂 嵐斗 (1年)	66kg級	銀メダル
		男子団体	銅メダル

SS SEMINAR

スポーツ科学部
ゼミナール紹介

小山 裕三ゼミナール

担当教員/小山 裕三 教授
専門領域/スポーツ運動学
担当科目/スポーツ
運動学原論



様々なスポーツの技術を対象とした スポーツ運動学的観点からの質的検討

様々なスポーツ種目において、技術を理解することはパフォーマンスの向上を考える上で非常に重要です。小山ゼミではその技術に関して、一つのまとまりをもつ運動として捉え、質的な分析を行うためにはどのような方法があり、その方法によって導かれた結果をいかに分析し、整理するかについて学びます。また、その技術に関する「コツ」や「カン」といった捉えにくい情報に対して、どのような方法を用いればそれを抽出することができるのか実践などを通して学びます。さらに、そこで得られた分析内容の妥当性について、先行研究を精査し比較を行い、科学的知見となるようにまとめていくことを目標としています。



スポーツ科学部授業紹介

トレーニング学原論

スポーツ科学部 青山 亜紀 教授



競技スポーツでは主要試合で最高の競技力を発揮することが大きな目標の一つです。本講義では、最高の競技力を適切に形成するためのトレーニングに関する様々な問題について解説し、その知識を自身の専門種目へ応用していくことを目指します。

競技スポーツ実習Ⅰ

スポーツ科学部 澤野 大地 専任講師



自身のスポーツ活動を対象として、活動内容をトレーニング学的観点から分析し、反省的実践を行います。様々なスポーツ種目のトレーニングについて横断的に理解するために何度もディスカッションを重ね、内容をまとめ、発表することが授業の中心となります。

スポーツ科学部の先輩に聞く! /

シュウカツ体験記

第一志望の企業から内定を獲得した先輩の就活体験談をお届けします。

就活を続けて、好きなことに関わる企業を発見

私は、陸上競技を高校から続けており、ランニングシューズに関わる仕事をするのが夢でした。大学3年生の5月頃から学内の就職支援セミナー参加をきっかけに就職活動を始め、ランニングシューズに関わる仕事だけを夢見ていた私は、セミナーを受けていく中で、その他にどのような仕事があるのか何も知らないことが分かりました。そのため、世の中にはどんな仕事があるのかを学ぶべく、未知の業界のインターンに参加をするなど就職活動を続けていくにつれて、ランニングシューズが好きなのではなく、陸上競技というスポーツが好きなのことに気づいたのです。そこから、スポーツメーカーや靴メーカーだけでなく、陸上競技の大会で思いつくものを考えていき、その中で計時計計に関わる企業を発見。その企業に焦点を絞り、大学での面接対策講座などに参加し、できる限りの対策を続けた結果、自分が好きな陸上競技に関わる企業に内定をいただくことができました。スポーツ科学部で競技スポーツにおける大会のサポートなどを学んでいたことが直接的に活かせる職場であると実感しています。



計時計計に
関わる企業に
内定!

スポーツ科学部 4年 鶴岡 秀樹

求められているのは、解決へと導く視点の多さ

私の就職活動は、2019年2月から本格的に始まりました。私には「地元長野で働き、長野の良さを広めたい」「自分の強みを活かせる仕事に就きたい」という思いがあり、この2つを軸に就職活動を展開。その中で、私は業界を絞らず"自分の軸"を中心に企業選択をし、5月にホテル業界から内定をいただきました。選考の過程は、エントリー、施設見学会、1次選考(筆記試験・人事面接)、最終選考(総支配人面接)という流れです。就職活動をしていく中で、この学部にてスポーツを通して学んだ反省的実践が役立ちました。様々な事柄を計画し実行していく過程で、より良い解決策についてどれだけの視点を持つことができるかという力は、スポーツ界だけでなく社会全体にも求められていると実感しています。就職活動を終え、Uターン就職希望ということもあり、金銭的・時間的に苦労した面もありましたが、自分自身を見つめ直す良い機会であり、社会人への貴重な第一歩になったと思います。



地元の
ホテル業界に
内定!

スポーツ科学部 4年 松澤 柚季

SANCHA NOW!

日本大学 三軒茶屋キャンパス

平成31年度 開講式

新たな
仲間とともに、
新たな
夢の実現へ。

4月1日に、危機管理学部315人、スポーツ科学部314人の新入生を迎えて開講式が行われました。皆さんの仲間とともに各自が抱く夢の実現に向かって新しい生活がスタートします。



SANCHA SPORTS FESTIVAL 2019.04.20

開会式



各部の新入生が混合で全10組のチームに。開会式では危機管理学部長・福田弥夫教授の挨拶やムービーの上映も。



各チームの意気込みを語ったオープニングムービー

リレー



全10組が快走したリレー。バトンをつないで、まずは予選突破!



勝ち上がった組による決勝。勝利を目前に、戦いはさらにヒートアップ!

人間知恵の輪



「人間知恵の輪」は、腕をほどくスピードを競う。チームメンバーの間でコミュニケーションが活発に!

大縄跳び



掛け声にあわせて一斉にジャンプ! 気持ちをひとつに何度も挑戦。

台風の目



棒をバトンに4人で走る「台風の目」。直進もカーブも、調子をあわせてスムーズに。

閉会式



優勝は「4組」に決定。和気あいあいとした雰囲気の中、スポーツ科学部長・小山裕三教授が閉会式の挨拶をしました。



優勝の喜びでおもわずガッツポーズ!



はじめての就活



危機管理学部 4年
小林 浩也

東京海上日動火災保険に内定

私は危機管理という実学の専門性に加え、体育会のクラブ活動を通じて得た、体力、精神力、戦略力を武器に就職戦線を戦い抜くことができました。後輩のみなさんは、何事にも臆せず、早い時期から戦略をもって就活戦線に立ち向かってください。



危機管理学部 4年
大久保 歩佳

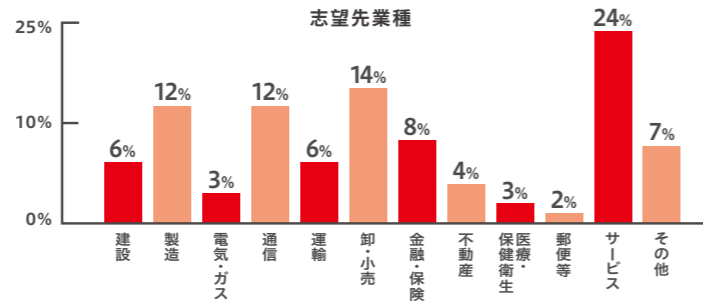
伊藤園に内定

企業説明会やインターンシップに参加し、社員の方々から話を聞くなど対話を重ねるうちに、食品業界に魅力を感じるようになりました。新入社員として営業職で頑張ります。3年生のみなさんも、多くの人から話を聞き、関心を持った企業には積極的にチャレンジして下さい。

就活状況レポート [木原 淳 教授]

企業志望者の動向

売手市況とインターンシップの普及を背景に、3月の広報解禁までに出願先の多くが絞り込まれました。広報解禁直後から提出用ESの作成が始まり、春の10連休前に区切りをつけたい企業の思惑にも引っ張られ、6月までに内々定を得る学生も多かったようです。なお、志望先はグラフのように、様々な業界にわたっています。



公務員志望者の動向

民間企業同様、志望先は多岐にわたりました。学部内での公務員講座に加え、公務員としての勤務経験を持つ教員による面接指導なども行った結果、国家総合職、自衛隊幹部候補生、国家一般職、地方上級・市町村、警察官・消防吏員等の試験に合格しています。

3年生に向けて

4年生の就活状況をふまえ、通年採用の影響による早期化にも対応できる準備を整えることが肝要です。企業志望者はSPI等の筆記試験、公務員志望者は志望動機をじっくりと掘り下げ、面接対策を強化する必要があります。



危機管理学部 4年
土師 友香

国家公務員一般職・国土交通省に内定

仙台で被災した経験から、インフラ整備に携わりたいと願い国土交通省を志望しました。公務員を目指す予備校には通わずに、大学本部主催の講座を受講しながら、公務員模試などにも積極的に参加しました。公務員試験は長期戦になりますが、仲間と支え合いながら頑張ってください。



危機管理学部 4年
大竹 琢斗

東京消防庁消防官(1類)に内定

成績が思うように伸びずに辛い時期もありました。でも「頑張れ」と言ってくれる家族や大学の先生方のサポート、同じ公務員を目指す仲間たちと切磋琢磨しながら夢を叶えることができました。後輩のみなさんも周りの人への感謝の心を持ち、就活に励んでもらえればと思います。

RM Seminar File

杉山 幸一 ゼミナール

危機管理に憲法を活かす



担当教員
准教授 杉山 幸一

専門 / 経歴
憲法学
■ 日本大学法学部
■ 日本大学大学院
法学研究科(公法学)
■ 八戸学院大学専任講師を経て、2016年より現職

本ゼミナールは立憲主義の基づく危機管理法制について研究しています。憲法で保障された人権を法律で制限するための正当性や立憲主義に基づく政府の権限行使のあり方などを中心に、3年次では各自が考えた問題点とそれに対する仮説を発表し、卒論の構想を作成します。4年次はその構想に基づき、卒論を執筆します。また、合宿や交流会などを行い、ONとOFFの切りかえをモットーに、団結力のあるゼミナールです。

瀧川 修吾 ゼミナール

よく学び、よく遊ぶ



担当教員
准教授 瀧川 修吾

専門 / 経歴
政治学
日本政治史・政治思想史
■ 開智国際大学リベラルアーツ
学部准教授を経て現職
■ 日本大学大学院総合
社会情報研究科准教授

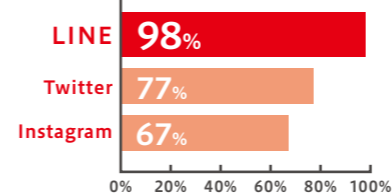
「よく学び、よく遊ぶ」をモットーとする本ゼミでは、政治・マスコミという幅広い領域から「危機」にまつわるテーマを、ゼミ生各自が見出し個人研究発表を行うほか、学園祭での共同研究発表、ディベートやプレスト等々のグループワークに取り組みます。ゼミ生の要望に応じ、各界で活躍するOBを招いた企業研究、BBQや魚釣りなどのイベントも行います。

Data of RM

データで見る
危機管理学部の
キャンパスライフ

危機管理学部の全学生にアンケートを実施。学生のICTを活用している状況など、リアルなデータをご紹介します。

Q.1 使ってるSNSは、何?



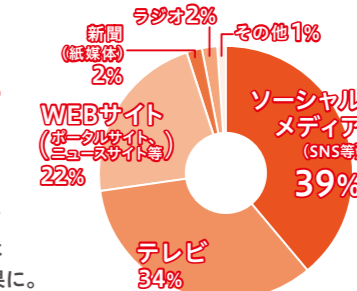
LINEの利用率が圧倒的! その他にも、Facebook(18%)、TikTok(9%)が挙げられ、SNSを利用していない学生はわずか1%でした。

ゼミではLINEグループをつくって、情報共有してます!



Q.2 ニュースを知る手段は?

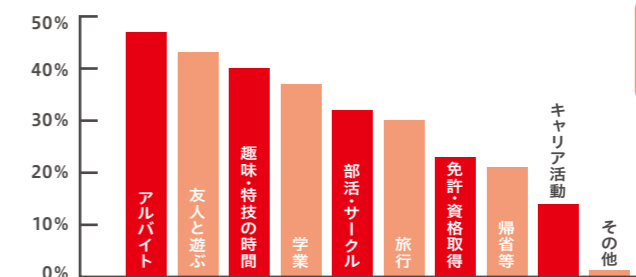
SNS等の「ソーシャルメディア」が最も多い反面、「新聞」は極めて少ないという結果に。



新聞には、新しい発見が詰まっているので、ぜひ読んでみよう!



Q.3 夏休みにしたいことは?



夏休みは、大忙し! 時間をしっかり管理して、勉強もやらなきゃ...



RM Seminar File

危機管理学部 ゼミナール/研究室の紹介②

危機管理学部には、危機管理に関する特殊研究や実務教育を行う28の研究室およびゼミナールがあります。少人数の実践的演習を通じて、危機管理の現場で調整力・交渉力を発揮できる人材の育成を目指しています。

特殊研究 木原 淳 研究室

戦略的思考で問題解決を



担当教員
教授 木原 淳

専門/経歴
防衛法制
コミュニケーション英語
■防衛省内部部局等で
防衛行政等に従事
■2015年 本学教授に就任

安全保障や軍事を題材に日々の課題解決にも応用の利く戦略的思考のフレームを学んでいます。考察の範囲をメタ知識(知識の知識)に広げ、自分がプレイすべき「ゲームのルール」の本質と妥当性を時の常識にとらわれず内省し、イノベティブな問題解決を図る力の養成を目指しています。三茶祭では日露戦争での乃木軍の旅順攻略の研究成果を展示しました。

小向 太郎 ゼミナール

知的好奇心を刺激する自由なゼミ



担当教員
教授 小向 太郎

専門/経歴
情報化の進展によってもたらされる法制度上の問題が専門
■早稲田大学政治経済学部卒業
中央大学博士(法学)
■情報通信総合研究所取締役
法制度研究部長・主席研究員、
早稲田大学客員准教授等を経て現職

社会の情報化は、人々の生活を豊かで快適なものにする一方で、今まではなかった新しい問題も生み出します。このゼミでは、AI、仮想通貨、サイバー攻撃、ネット炎上、プライバシー侵害、著作権侵害などの課題について、それぞれが自由にテーマを決めて研究しています。「研究は真面目に、その他の活動は自主的に楽しむ」

特殊研究 金山 泰介 研究室

日本初のクリミナルジャスティス課程の発展を目指して



担当教員
教授 金山 泰介

専門/経歴
警察行政
社会安全政策
■元埼玉県警察本部長
■ハーバード大学客員
研究員を経て、
2016年より現職。

クリミナルジャスティスとは、犯罪等から社会の安全を守るための諸施策を総合的に扱う学術分野のことで、欧米では50年以上の歴史を持っています。そこで学ぶ学生は主に警察官等法執行官志望者です。本学部のパブリックセキュリティ領域は、日本初のクリミナルジャスティス課程で、本研究室ではその発展を目指して未来の警察官達が切磋琢磨しています。

特殊研究 太田 茂 研究室

刑事司法に通じた危機管理パーソンを目指す



担当教員
教授 太田 茂

専門/経歴
刑事訴訟法
■検事として34年間、
犯罪捜査・公判などに従事
■東京地検、大阪地検、最高検、
法務省などに勤務、京都地検
検事正を最後に退職
■早稲田大学法科大学院教授
を経て現職

刑訴法の判例、法制史、外国の刑事司法制度、無罪判決の諸問題など、刑事をめぐる様々な理論と実務について、各自が役割分担して研究発表をし、討論します。生きた実践的な勉強です。模擬裁判も行います。進路は、法科大学院、警察官、企業など、様々です。年2回のコンパもします。

大八木 時広 ゼミナール

国際政治から危機管理を学ぶ



担当教員
准教授 大八木 時広

専門/経歴
国際政治学
地域研究
■日本大学大学院法学
研究科で国際政治学と
欧州政治史を学ぶ
■常盤大学、日本大学の
各学部にて政治学、
国際政治学の講義を担当

大八木ゼミは、主としてグローバル領域を研究対象としています。他の領域出身のゼミ生も多く、幅広い視点から国際関係を学んでいます。3年生はまず国際政治史のテキストを用いて基礎知識を学びつつ、グループワークによるプレゼンを行っています。4年生は卒論作成のための個人研究を行っています。テーマは、キューバ危機や朝鮮戦争、19世紀のイギリス社会、革命家チェ・ゲバラ研究などバリエーションに富んでいます。

安藤 貴世 ゼミナール

国際法×危機管理:国際社会に貢献する人材を目指して



担当教員
教授 安藤 貴世

専門/経歴
国際法
■東京大学教養学部卒業
■東京大学大学院博士課程
在籍時に外務省に任期付
職員として勤務
■日本大学国際関係学部
准教授を経て現職
■法務省難民審査委員
を務める

安藤ゼミでは「国際法」をテーマに、紛争、テロ、難民、領土、軍縮、貧困、災害支援など、危機管理に関わる様々な国際問題について考察します。3年次前期に各自の関心に沿って卒論のテーマを決め、2年間かけて研究を深めます。ゼミでの白熱した議論、三茶祭への参加、軽井沢でのゼミ合宿などを通し、ゼミ生同士とても仲が良く、団結力があるのも特徴です。

特殊研究 美濃輪 正行 研究室

情報技術の疑問を追求して未来に備える



担当教員
教授 美濃輪 正行

専門/経歴
情報セキュリティ
■早稲田大学教育学部
理学科卒業
■日本IBM勤務、
保険業界等のSE歴任
■2014年 本学教授に就任

情報技術は、企業システム、個人ツール、社会インフラとして幅広く活用される一方で、サイバー犯罪やフェイクニュース等の災禍の要因になっています。このような問題に対処すべく、本クラスでは、情報セキュリティ管理、人工知能やビッグデータ等の最新技術、災害対策の分野について基礎を履修し、各自が興味を持つ分野の研究レポート作成に取り組んでいます。

川中 敬一 ゼミナール

実事求是



担当教員
教授 川中 敬一

専門/経歴
ストラテジー
地域研究
■海上自衛隊 艦艇勤務、
幕僚監部勤務、情報部勤務、
研究機関勤務
■防衛大学校 戦略教育担当

本ゼミでは、「実事求是」をモットーにしています。自らの知性と感性とを悩ましながら、「模範解答無き問題への正解を導き出す」ために日々、学生は研鑽しています。この苦悩は、世間や職場の「空気」に埋没することなく、自身の判断基準を構築することを目的にしています。ゼミでは、教員からの意地悪な質問に屈せず、果敢に回答する活気があふれています。

危機管理学部、 4年目の「今」。



保護者の皆様、広報誌「SANCHA」第2号が出来上がりました。前期も終わり、ご子女の成績に一喜一憂しているかもしれません。

さて、危機管理学部は4月の開講式を経て、1~4年生まで勢ぞろいする完成年度を迎えました。4年生は学部での学びを活かして就活にチャレンジしています。朗報もあれば、悔し涙もあります。教職員は全力で応援しています。そんな先輩たちの背中を見ながら、3年生や2年生、そして1年生も、将来の自分を模索し始めているようです。これからも皆様には、ご子女の成長を温かく見守っていただければと思います。

学生による

専門科目紹介



「危機管理基礎演習Ⅰ」

この科目は、1年次の必修科目「自主創造の基礎」が土台となっていて、3年次のゼミナールや「危機管理特殊研究」への将来の選択を見極める時間となっています。これからのゼミナール等で、自分がどのような研究テーマ、研究計画で卒業論文や卒業研究を行うか、それを確立するのがこの演習です。また、少人数制が設けられている

ので、先生方や他の学生との距離が近く、より親身にアドバイスをいただけることで成長に繋がっています。



危機管理学部2年 佐藤 理森



福田充クラスでは、隔週毎に行われる研究発表で、自分の気になっていたことを各自テーマに掲げ、自己学習したものを持ち寄りプレゼン。それに対して、ディスカッションを皆で行う形式です。少人数制ゆえに各々の話を細かいところまで聞き、調べることで、お互い違う分野での知識や技術などを共有することができ、研究力の向上に繋がっています。

したい事・やりたい事がより明確に

1年次に興味が出てきたことや知りたかったことがこの演習のスタートラインです。その自分自身の興味関心に、目的意識や自己決定の力が加わって、選択肢と視野が広がるのが、「危機管理基礎演習」の授業です。

自分が本当にやりたい研究は何か、自分が追いかけていきたい研究テーマを確立するのに、自分の研究計画を発表しながら、受講生の皆で議論し、アドバイスしながら互いに切磋琢磨できるのがこの演習。毎回、お互いの研究テーマや計画を議論することで、気がついたら、自分自身のしたいこと、やりたいことが以前より明確になっていました。

この学部、この演習クラスを選択して、たくさん経験と知識を得て、社会への責任感がさらに強くなったと感じています。だからこそ、この経験を今後への糧とし、さらなる専門性の高い研究と、就職活動を通じて、社会の様々な課題解決と社会貢献に活かしていきたいと思っています。

教員の眼

様々な立場に自分を置き換えてみると違った景色が見えるはず

危機管理学部 准教授 鈴木 秀洋

渡部 私達には、先生がオレンジの服で構内を走り回っているイメージがあります。

鈴木 奥木・児童虐待に関しては、毎日虐待で子どもが命を落とすという調査があります。「どうしたら命を救えるのだろうか」と思いますが、「私は行政、医療、心理、法曹、警察、NPO等様々な専門領域の人達と連携の法制度設計、実際の相談対応力の向上、予防プログラム等に力を入れています。子どもの命を守るには親と支える姿勢が大切です。武長、私はこれまで加害者を厳罰にの視点でしたが、もう少し幅広く研究してみます。最後に学生にメッセージをもらえますか。」

鈴木 大学時代って自分の人生の土台を作る大事な時期です。アンテナをたてて、様々な環境・立場に身を置いて「感じ、考え、議論してみる」ことが大切だと思います。この大学には様々な分野の第一人者がいます。先生達にぶつかっていくとよいです。



インタビュー
危機管理学部3年 渡部 枝里香 / 武長 恵



“危機管理”を 見て聞いて知って！

公開講座「改正相続法のポイント」

講師/危機管理学部准教授 永沼 淳子

急激な高齢化を背景として、約40年ぶりに改正された相続法をテーマに、7月2日、「改正相続法のポイント」と題した公開講座を開催しました。残された配偶者の居住権や被相続人を長期介護した親族に対する相続制度など、今回見直された内容は、高齢化社会特有の課題に対応する新制度の創設が多いのが特徴です。テーマが「相続」ということもあり、聴講に訪れた近隣のみならず比較的年配の方が多く、講演中はどなたも熱心にメモをとり、終了後には数名の方から質問をいただきました。その多くは「自身が関係する相続の心配事に関して、なかには相続法の枠を超えた難しいものもありました。人生の終わりに向けて、残された家族のために自分は何をすべきか」と真摯に考え取り組む姿に接し、相続制度の重要性を再認識させられました。

危機管理学シンポジウムを開催

令和元年度のシンポジウムは、「令和時代の情報セキュリティ」をテーマに、7月22日に開催しました。「コンピュータ・ネットワークの社会への浸透によって、情報セキュリティに関する脅威はいよいよ深刻になっていきます。小向太郎教授の司会進行で進められたシンポジウムには、美濃輪正行教授をはじめ、情報セキュリティ実務の最前線で活躍するパネリストを招き、政府や企業間の連携強化、新たな犯罪や攻撃、グローバル化への対応、社会的なリテラシーの育成、人材の不足などの諸課題を取り上げました。約150名(教職員・学生・一般)の参加があり、会場からも幅広い観点から質問や意見が寄せられ、活発な議論が行われました。

